

平成21年度 学校評価中間結果の分析について(7月実施)

晩秋の候、保護者の皆様には日頃より本校教育活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

「平成21年度の学校評価中間アンケート」の集計ならびに分析についてご報告いたします。

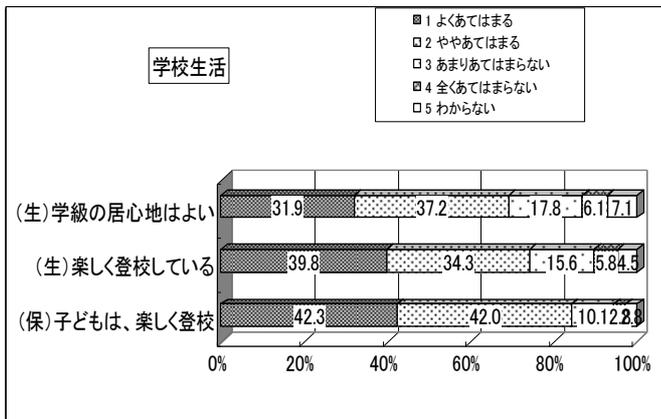
7月に実施いたしました「平成21年度の学校評価中間アンケート」は、集計・分析、本校教職員による研修を経て、取り組みを検討してまいりました。励ましのお言葉や厳しいご意見をいただきましたが、今後の我々教職員の取り組みとして活かしてまいります。なお、いただいたご意見につきましては、検討し、改善できる事柄については改善していきます。

実施人数は、生徒 862人、保護者 749人、教職員 27人です。

(生) …生徒、(保) …保護者、(教) …教職員を表しています。

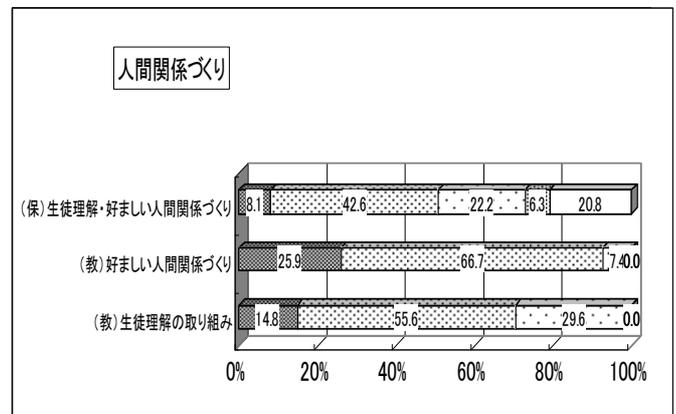
(グラフ 左：平成20年度最終評価 右：平成21年度中間評価)

【学校生活・人間関係づくり】

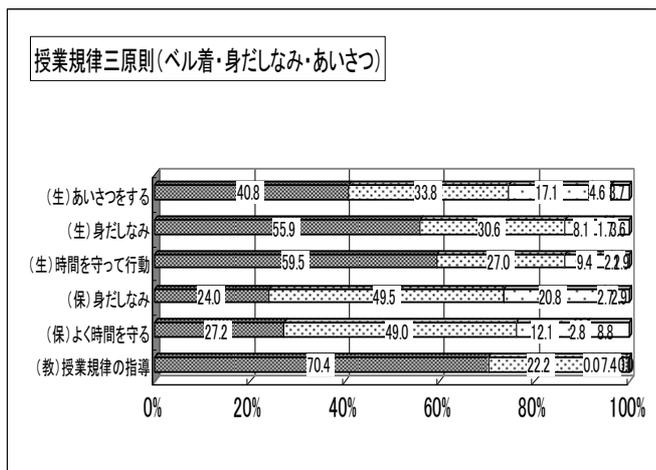


「学校が楽しい」「子どもが楽しく登校している」については、生徒も保護者も昨年度と変化は見られませんでした。昨年度同様、日常の学校生活やふれあい週間の教育相談など、意識して生徒と関わる時間を確保し、生徒との対話の機会を増やしていきます。今年度も実施している Q-U テストの結果をもとに、個々の生徒について学年会等で情報交換することで「個々の生徒にかかわり好ましい人間関係づくり」を行うことを進めていきます。また、今年度、「生

徒同士のかかわりあいを持たせた授業づくり」を研究テーマに好ましい人間関係づくりを行っています。それができていないと感じている保護者・教職員の評価が結果に表れていると思われます。今後も、互いに研修し実践して検証することを共有化して、指導技術を高めていきます。



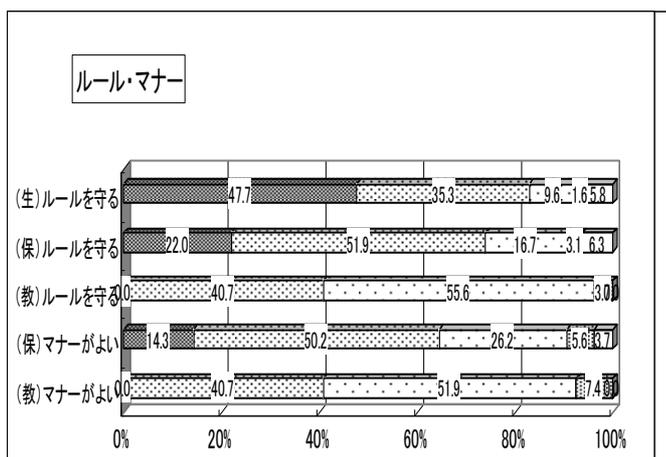
【授業規律三原則（ベル着・身だしなみ・あいさつ）】



昨年度と比較して、少しではありますが、生徒の「あいさつ」「身だしなみ」については成果が見られましたが、「時間」については評価が下がっています。下校時間が守られていないこともあり、生徒会視聴覚委員会では下校放送を流すように取り組んでいます。また、ベル着キャンペーンなどの取り組みがキャンペーン期間以外で生かされていらないので、取り組みの改善をしていきます。しかし、保護者の評価については、「身だしなみ」「時間」とも昨年度と変わっておらず、今まで以上の取り組みが必要だと思

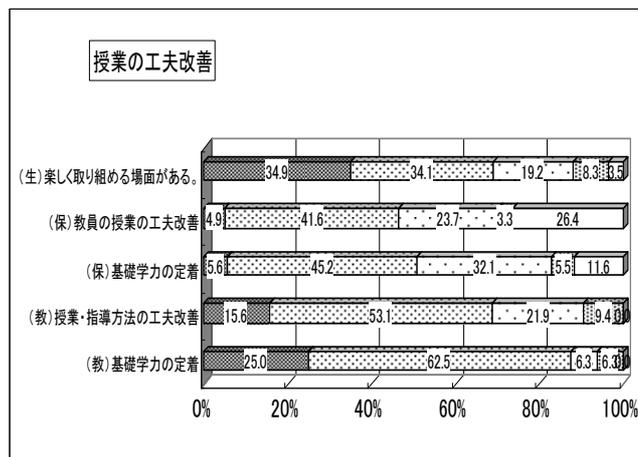
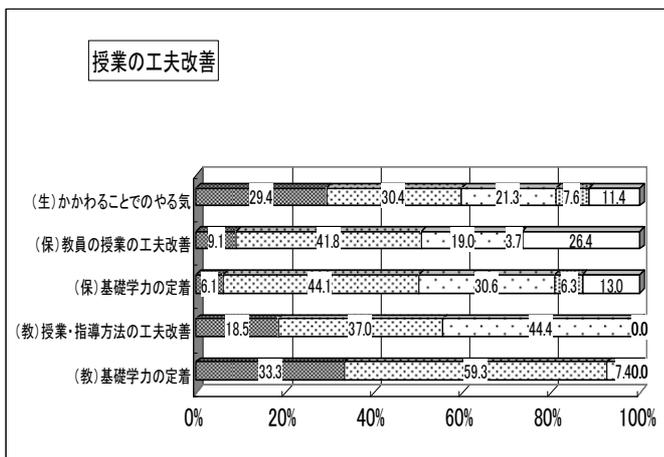
われます。また、「授業規律（三原則）」については、これからも粘り強く指導し続けていきます。

【ルール・マナー】



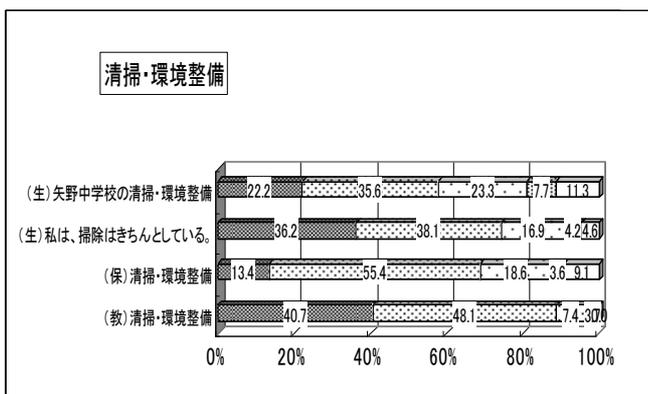
昨年度はルールとマナーをひとつの項目としておりましたが、今年度はルールとマナーを別々の項目としました。昨年度と比較すると、評価は少し上がっています。登下校のマナーが悪いという実態もあります。今年度も引き続き、ルールやマナーについて日々の生活の中で言い続け、規範意識を育てていけるよう取り組んでいきます。また、今年度は、「規範性をはぐくむための教材・活動プログラム」（広島市教育委員会）の協力校として、道徳の授業を中心に、各

教科・行事などを通して、生徒の感性を育て、心に響くような取り組みの工夫をしていきます。



【授業の工夫改善】

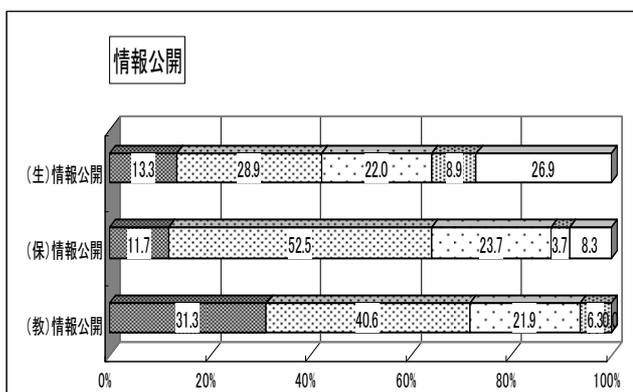
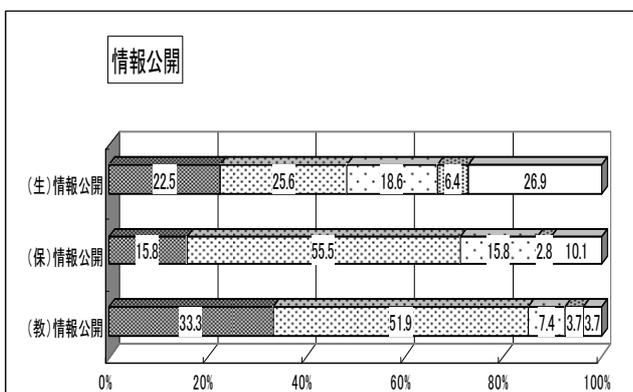
「基礎学力の定着」については、「基礎・基本」定着状況調査や全国学力・学習状況調査の結果から、さらに取り組みが必要です。学習習慣を定着させることができるように工夫・改善をしていきます。生徒の授業での「かかわることでも今までよりもやる気がでた」という項目については、「生徒どうしのかかわりを持たせた授業づくり」の取り組みを始めたばかりであり、また、教員も評価が下がっており、さらに工夫が必要です。



【清掃・環境整備】

昨年度と比較すると、生徒の「学校の清掃活動・環境整備」は評価が上がっていますが、生徒自身の評価は下がっています。これは、やはり「全体として日常の掃除や美化活動が徹底していない状況」と思われます。やっているという意識はあるため、さらに、実際しっかりできているか、きれいになっているかを意識できるような取り組みを

工夫していきます。また、「清掃活動に一生懸命である」ということは心を育てるという意味でも大切なことであると考えており、落ち着いた環境で学習できるように今後も取り組みを工夫していきます。



【情報公開】

昨年度とあまり変化は見られませんでした。まだ伝わりきっていない部分があると思われます。今年度は土曜日の授業参観や部活参観を行っていますが、さらに「情報公開の機会」を増やし、これまでの「情報伝達の内容」を充実させていきます。また、「矢野中ナビ」を活用してもらえるように内容の充実を図っていきます。